

CNAC 第 8 回全国フォーラムに参加して

環境ボランティアサークル亀の子隊 代表 鈴木吉春

CNACの全国フォーラムは、私にとって毎年多くの刺激を与えてくれる場所として大切なものです。今回、「横浜！海辺の環境教育一人と海をつなぐー」をテーマにした全国フォーラムでは、キーノートスピーチとしてNPO法人ディスカバーブルーの代表：水井涼太さんが、「いつまでもこの海と暮らしていくために～海と向き合う社会を目指して～」と題しての提案は、実に参考となりました。神奈川県真鶴町という小さな街を舞台にして、その街の海のよさを生かしていこうという試みは、ドキドキしながら聞きました。3方を海で囲まれた渥美半島では海を生かした活動がほとんどない。是非、海を大切にしたい街づくりを進めたいと改めて思いました。

活動事例発表のみなさんの活動もみなさんの海への愛情を感じる、素晴らしいものでした。その中でも、NPO法人海辺づくり研究会の鈴木覚さんが紹介してくれた「夢ワカメワークショップ」は大変興味深いものでした。

2日目のワークショップは、その「夢ワカメワークショップ」の体験でしたが、横浜の海に浮かぶイカダからあげられるワカメを見た時には、「わずか2カ月でこんなにおおくなるんだ！」と、感動でした。参加者のみんな同じ思いだったと思います。

渥美半島では、表浜に漂着するワカメを収穫する習慣はありますが、養殖をしていることはありません。しかし、この活動は亀の子隊が行っている「海水からの塩づくり」や「タッチングプール」と同じように海の恵みへの感謝の思いをもつ活動として実践したいと思いました。

今回のフォーラムのテーマは、「環境教育」でした。ともすると、成分とか溶存酸素の量とか、生き物が生きていくためには・・・、と数値やデータ、物質の名前を教えることが「環境教育」と思ってしまいがちですが、環境教育では何かを教えようとするのではなく、子どもたちが「感動」する場づくりをすることが大切だと思います。そして、活動の終わりに「海って素晴らしいね」とか「海に感謝だね」、「もっと海を大切にしたいね」という感想がもてるようにすることだと思います。こうした感動のある活動を通して参加者自身が「海の大切さ」や「海のよさ」「海の素晴らしさ」を感じることで、いつまでも海と暮らしていくために欠かせないことだと思います。